

事業名		博物館活動の充実				評価実施者		所 属 美術自然史館 職・氏名 副館長 森 昌之	
事業の概要	開始年度	根拠法令等				特定財源			
	実施方法	☒ 直接 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担金 ☐ その他〔 〕							
	目 的	芸術文化と創造活動、そして地球と生命を学ぶ拠点である「美術自然史館」、こどもの科学する心を育む拠点である「こども科学館」、歴史的文化遺産保存・研究の拠点である「郷土館」、人と自然をつなぐ拠点「森のかがく活動センター」を活性化することで、「創造文化のまち」を実現する。							
事業内容	博物館の使命・役割を果たし、個性ある地域文化を創造するため、郷土ゆかりの3作家などの作品・資料収集及び調査研究、空知川の化石調査・資料収集などに努め、その成果として収蔵作品を活用したコレクション展「とまれ！地球温暖化展」や人物デッサン会などの普及事業を開催したほか、子どもたちの科学の興味・関心の裾野を広げる「わくわくサイエンス」事業や「移動郷土館」「村田武雄・たきかわ野の花事業」に取り組んだ。								
事業コスト	区 分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特 記 事 項		
	事業費(A)				4,004		特定財源		
	うち一般財源				3,371		コミュニティー助成金 500千円		
	人件費(B)						普及事業参加料 133千円		
	総コスト(A)+(B)	0	0	0	4,004	0	※単位：千円		
実績と成果	区 分	単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果	
	事業の実績 (アウトプット)	1							
		2							
		3							
	事業の成果 (アウトカム)	1							
		2							
		3							
	評価項目	1 適応性	7	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。					■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			7	②事業を市が行う必要性があるか。					□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1
		2 有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。					■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
8			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。					■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	
3 目標達成度		7	⑤目標の水準は適切か。					■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	
		7	⑥計画通りに目標を達成できたか。					□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1	
4 経済性効率性		7	⑦コストは縮減しているか。					■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	
		7	⑧事務は効率的に行われているか。					□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1	
総合評価		合計	29	ランク	上記評価を踏まえた事業の課題				
		↓ 100点換算	91	A	地域固有の課題に応える博物館として、それぞれの使命を果たし、知名度向上と入館者増を図るため、他の博物館とのネットワークの構築や連携を推進するとともに、コストを縮減しながら取り組む必要がある。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☐ 現状維持				

◎外部評価

評価項目	点数	判 定	点検・評価に関するコメント
1 適応性	7	① ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1 ② □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1	合計 29 ↓ 100点換算 91 ランク A ・博物館を含め社会教育施設は行財政改革の対象になりやすい。市民との協働も含め将来的なビジョンを持ってほしい。 ・博物館の活動はソフト事業が最たるもの。若手への作品や著名な作品を集めた展覧会など、人が集まる企画をしていく必要があると思う。質的向上を目指してほしい。
2 有効性	8	③ ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1 ④ ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	
3 目標達成度	7	⑤ ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1 ⑥ □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1	
4 経済性効率性	7	⑦ ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1 ⑧ □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1	